

第四十五回帝國議會
衆議院

破産法案外一件(破産法案)委員會會議錄(筆記)第一回

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

委員會成立
本委員ハ大正十一年二月二十八日議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

前田 米藏君 高田 良平君 野副 重一君
益谷 秀次君 木村作次郎君 岩崎幸治郎君
櫻内 幸雄君 水野吉太郎君 麓 純義君
金山 庸夫君 福井 甚三君 石川 淳君
横山金太郎君 野田文一郎君 作間 耕逸君
野村 嘉六君 渡邊 昭君 森下龜太郎君
三月一日午前十時三十分委員長理事互選ノ爲各委員參集ス
其ノ氏名左ノ如シ

前田 米藏君 高田 良平君 野副 重一君
益谷 秀次君 岩崎幸治郎君 櫻内 幸雄君
水野吉太郎君 麓 純義君 金光 庸夫君
野田文一郎君 森下龜太郎君

○議長投票管理若ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フヘキ旨ヲ宣告ス
○櫻内委員ハ投票ヲ用キス前田米藏君ヲ委員長ニ推薦シ理事ハ其ノ數ヲ三名トシ委員長ノ指名ニ一任スヘシト意見ヲ提出ス

○議長投票管理若ハ櫻内君ノ意見ニ異議ナキヲ認メ前田米藏君ハ委員長ニ當選シタル旨ヲ宣告ス

〔前田米藏君委員長長席ニ著ク〕
○前田委員長ハ麓純義君野田文一郎君森下龜太郎君ヲ理事ニ指名シ散會ヲ宣告ス

于時午前十時四十分

會議

大正十一年三月二日午前十一時二十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 前田 米藏君 理事 野田文一郎君
理事 麓 純義君 野副 重一君
野副 重一君 金光 庸夫君 福井 甚三君
石川 淳君 野村 嘉六君 森下龜太郎君
出席政府委員左ノ如シ

司法次官 山内 確三郎君
司法省民事局長 池田 寅二郎君
司法省參事官 三宅 正太郎君

破産法案
和議法案
○前田委員長 破産法及和議法ノ委員會ヲ只今カラ開キマス、先ツ破産法及和議法ノ説明ヲ政府當局ノ方カラ致シマス

○山内政府委員 此本會議ニ於テ大體御説明ヲ致シマシタ時ニ中上ゲマシタ通りニ、破産法ノ制定ニ付テ大變長イ時間ヲ要シテ居ル、而シテ破産ニ關スル現行ノ法規ハ、說明書ニモ書イテゴザイマス通り、明治四十三年法律第二號ト云フノ法律ガ發布ニナツテ居リマス、當時御承知ノ通りニ舊民法舊商法モ出來上ツテ居リマス、然ルニ法典實施延期ノ運動ガアリ、國情ニ合ハスト云フ爲ニ、實施セラレズニ濟ンダ、而シテ商法モ亦民法ト同時ニ實施セラレズニ居リマス、就中破産編、手形編、會社編、此三ツダケハドウシテモ直ニ行ハナケレバナラスト云フノデ、一部ノ修正ヲ加ヘテ、明治二十五六年頃實施セラレタト私ハ記憶致シテ居ル、其破産編ト云フノガ、現行ノ所謂破産法ト云フコトニナツテ居ル、固ヨリサウ云フ次第デアリマスカラ、規定ノ不備ナルコト、其趣旨ノ徹底セザルコト等ハ、實務家ニ於テモ、學者ニ於テモ、又司法行政ノ當局ニ於テモ、極テ不備ナル法律デアラルト云フコトハ疾クニ認メテ居リマス、而シテ其改正ヲ著手致シタノデアリマス、然ルニ其改正前ニ第一ニ爲スベキ事ハ、民法、商法、此法典ノ編纂ト云フコトガ重大ナル問題デアリマスカラ、ソレニ第一ニ著手致シマタ、法典調査會ガ出來テ、而シテ民法、商法ガ出來上ツタ上デ、始テ破産法ノ修正ニ掛ツテ、ソレガ明治三十五年一應ノ法典調査會ノ案ト云フモノガ出來マシタ、是ガ今日ノ破産法案トシテ世ノ中ニ公表サレテ居ルヤウナ次第デアル、爾來商法モ亦全部ノ修正ヲ行ヒ、實際ノ運用上甚ダ困ルト云フ關係カラ、商法全編ニ亘ツテ修正ガ行ハレテ、明治四十三年ノ冬ノ議會ニ改正商法ガ出來上ツテ、ソコデ破産法ノ改正ガ遅レテ來マシタガ、結局民法、商法トノ重大ナル關係ノアルコトデアラル、其民法、商法ノ中ニ破産ニ關スル規定ガ二三アルノデアリマス、或ハ會社ノ破産ガ起リタトキニハ、貸借ノ關係ハドウ云フ事ニナル、雇傭關係ハドウ云フ風ニナルト種々參照シタ規定ガ民法ニアル、併ナガラ固ヨリ是タケデ破産ニ於ケル法律關係ノ全部ヲ實施スルコトハ、勿論出來ナイノデアリマスカラ、サウ云フ關係カラ民法、商法、其他ノ實體法規ヲ本ニシテ、破産法上ノ

關係ト云フモノハドウ云フ法律效果ヲ附ケナケレバナラヌカト云フコトニ付テハ、餘程困難ナ問題ガ澤山アル、ソレハ商法ガ改正セラレタ結果ト、或ハ其他ノ關係カラ、法典調査會ノ案ヲ見マス、頗ル不備ノ點ガ多シ、其位此法典調査委員案ノ全部ニ付テ修正ヲ加ヘ、各條完備ナキ程、修正ヲシテ居ル、サウシテ此案ニナツテ居ルノデアリマスガ、此案ノ趣旨ニナリマス、現行法トハ勿論其別ノ法律ト云フ程ノ改革ニナツテ居ル、ソレデ此破産法案ノ要綱ハ理由書ノ中ニ掲ゲテ置キマシタカラ、之ニ就テ別ニ申上ゲマセズ、現行破産法ト此法案ト云フモノハ、別ナ物ダト云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイ、其中殊ニ申上ゲテ置キタイノハ、理由書ニ書イテ置マシタガ、結局商人破産ノ主義ヲ採ラズシテ、一般破産ノ主義ヲ採ラ、即チ商人關係ノミデナクシテ、商人ト商人ニ非ザル者ヲ分ズシテ、破産法ヲ適用スルコトニシタイト云フノガ重大ナル問題、ソコデ私ハ便宜此破産法案ノ趣意ヲ簡單ニ説明致シテ見タイト思フ、既ニ破産ノ關係等ニ付テ御承知ノ御方デアリマスノデ、私ノ言フ事ガ或ハ無用デアルカモ知レヌガ、説明者トシテ一應爰ニ申上ゲテ見タイト思フ、論ズル迄モナク破産ト云ヘバ、債務者ガ其債務ヲ完済スルコトガ出來ル場合ニ、即チ其資力ヲ以テ——或ハ資力ト云ヘバ必シモ財産ニ限リマセヌガ、信用モアル、財産其他其人ノ一切ノ資力ヲ以テ、債務ヲ辨済スルコトガ出來ナイ狀態ニ陥リタトキニ、其全財産ニ對シテ、所謂一括シタル財産ニ對シテ、總テノ債務者ノ爲ニ強制執行ヲスル、即チ一括強制執行ノ手續ヲ定メタモノガ此破産法デアラルノデアリマス、其破産法ニ於テ先ヅ此案ニ於テ手續トシテ定メマシタガ、破産ノ機關デアリマス、破産ノ如何ナル機關ニ依ツテ其手續ヲ遂行スルカ、斯様ナ點デアリマスガ、ソレハ申ス迄モナク破産裁判所ト云フモノガ一ツナケレバナラヌ、是ハ現行法ノ下ニ於テハ地方裁判ニナツテ居ル、然ルニ今日地方裁判所ノ破産ト云フモノガ極メテ亂雜ニナツテ居ル、或ハ強制執行手續、非訟事件、戶籍、斯ウ云フモノハ皆區裁判所ニアリマスルガ、爲ニ區裁判所ノ判事ハ極メテ此戶籍事件ナリ、或ハ強制執行事件ナリ、更ニ非訟事件ナリニ精通致シテ、其事務ヲ取扱フノガ先ヅ大體一絲不紊ニヤツテ居ルニモ拘ラズ、破産事件ガ地方裁判所ニ來テ、受命判事ガ破産事件ヲ遂行スルガ爲ニ、片手間仕事ニナツタ、破産事件ガ片手間ニナツタガ爲ニ、東京地方裁判所ニ於テスラ極メテ亂雜ニナツタ、況ヤ以下ノ方ニ於ケマ

テハ、此破産事件ト云フモノハ殆ドサウ云フモノヲ取扱フ
ノヲ喜バザルガ爲ニ、棄テ、シマツテ居ルト云フヤウナ形ニ
ナツテ居ル、ソレデハハドウシテモ區裁判所ノ判事ヲシテ專
門的ニ此事務ヲ處理サセタイ、恰モ非訟事件、戶籍事件等ノ
ヤウニ精通シタ判事ヲ爰ニ遣ッテ、サウシテ專門的ニ破産事
務ヲ取扱ハセタイト云フ考デ、是ハ獨逸ノ法律ニ則ッテ、區
裁判所ノ管轄ト云フコトニ致シタノデアリマス、獨逸判事
ノミナラズ、區裁判所ノ民事ノ事件ニ付テハ、裁判所書記ト
云フモノハ非常ニ精通致シテ居ル、破産事件モ書記ノ精通
シタ者ガ出來ナケレバ、到底遂行シテ行ク事ガ困難デアラウ
ト云フノデ區裁判所事件ニナツテ居ル、是ガ此案ノ破産機關
裁判所ニ關スル規定ノ、現行法ト異ル事デアリマス、次ニ此
破産管財人、是ハ現行法ト同様デ、管財人ガ破産手續遂行ノ
中心トナツテ、而シテ或ハ財産ヲ占有スルノモ破産管財人
之ヲ管理スルノモ、破産管財人、更ニ金錢ノ債權者ニ配付ス
ルノモ管財人ノ仕事デアル、即チ破産管財人ハ、破産ニ於ケル
手續遂行ノ中心中樞タル機關デアラウト云フコトハ、現行
法ト異ル所ハ無イノデアリマス、ソレカラ其次ニ機關ニナ
ルノガ債權者ノ集會、是モ現行法ト同様デ、破産事件ハ通常
ノ強制執行事件ト違ッテ、債權者ノ自治ニ依ッテ手續ヲ執行
スル、故ニ主ナル問題ハ債權者集會ニ於テ之ヲ議決スル、
債權者集會ノ議決ト云フモノハ、恰モ會社ノ株主總會ニ於
ケルガ如キ機關ニナルノデアリマス、併ナガラ債權者集會
ノ多數ノ債權者ノ集リデ以テ、總テノ事ヲ處理スルコトハ
出來ナイカラ、更ニ其中カラ監査委員ト云フ者ヲ選ブ、之ガ
現行法ニハ無イノデアリマス、監査委員ト云フノハ結局是
ハ整理委員見タヤウナモノニナル、債權者集會ニ一々掛ケ
ルノハ面倒ナ事デ、而シテ比較的重重ナルモノハ監査委員
ト云フ者ガ居ッテ、サウシテ管財人ノ事務ヲ監督シ、調査ヲ
シテ行クト云フ意味カラ監査委員ト名ツケル者ヲ置ク、即チ破
産機關デ、是等ノモノヲ以テ破産手續ノ遂行ニ與カルノデ、
而シテ破産ノ宣告ヲスルノハ誰ガスルカト云ヘバ、是ハ裁
判所ガスルノハ言フマデモナイ事デ、又破産宣告ノ事デ一
寸一言致シテ置キタイノハ、外ノ所ハ大體ニ於テ現行法ニ
違ハナイノデアリマスガ、此相續財產ト云フモノハ、本來相
續開始シタル後ハ、是ハ相續人ノ財產ノ一部ニナリ、或ハ全
部ノコトモアル、相續人ノ財產デアリマスケレドモ、相續開
始前ノ關係ニ於テハ、被相續人ノ關係ニ依ッテ諸般ノ權利義
務ノ關係ガ生ジテ來ル、民法ノ中ニモ、相續財產ノ關係ニ付
テハ、例ヘバ財產ノ分離ヲスルコトモアル、其場合ニハ相續
財產中引離シテ處分スル、即チ先代ノ債權ハ是ハ相續債權
者トシテ、自己ノ財產ニ付テハ特別ノ權利ヲ有テ居ル、即
チ相續人ノ債權者ニ對シテハ、優先ノ權利ヲ有ッテ居ルト云

フコトガ民法ニモアル、サウ云フ關係ニ於テ、此相續財產ハ
本來ハ人格者デハナイ、相續財產ノ一部デアリマスケレド
モ、破産手續ニ於テハ人格者ト同視スル、即チ此中ニ於テ破
産財團ト云フモノガ、財產相續人ニ對シテ破産ノ訴ヲ起ス
コトガ出來ルト云フコトヲ定メタノガ、此案ノ現行法ト最
モ異ナル所デアリマス、其關係カラ諸般ノムツカシイ問題
ガ起ッテ來ル、相續法ト關係シテ、相續人ニ對スル破産關係
ガ茲ニ複雜ナル問題ガ生ジテ來ル、ソレカラ破産財團ノ
管理換價、是ハ破産管財人ガスルコトニナル、破産財團ハ
即チ總債權ノ爲ニ一般擔保トナツテ居ッテ、之ヲ差押ヘテ
換價シテ、而シテ配當ニ充テルト云フノガ本旨デアリマス
カラ、其財產ノ散逸セザルガ爲ニハ、財產管財人ガ換價ス
ル、次デ之ヲ金錢ニ換ヘナケレバナラズ、故ニ、破産財團
ノ管理換價ノ規定ハ、周密ヲ極メテ居ルヤウナ次第デ、勿論
此管理換價ヲスルノハ何ノ爲ニスルカト云ヘバ、破産債權
者ニ配當スルノガ目的デアリマス、全財產ヲ殘ラズ配當ス
ルノガ目的デアリマスカラ、然ラバ債權者ノ範圍ヲ確定ス
ル必要ガ其關係カラ破産關係ノ届出ノ事ト、破産關係
ニ付テ來マス、即チ債權者ノ範圍ヲ定メ、而シテ破産財產
ノ配當ヲ受クベキ者ヲ明ニシナケレバナラズト云フノデ、
手續法ニ於テ破産財團ノ届出ノ規定ガアル、其次ハ配當、是
ハ申スマデモナク債權額ニ按分シテ財產ノ額ヲ分配スルノ
デアリマス、是ハ先ヅ通常ノ破産手續ノ進行デアリマス、配
當ヲ以テ破産手續ハ終結スルノデアリマス、尙ホ此以外ニ
現行法ノ協議契約ト同様ノ意味ヲ以テ、強制和議ト云フ名
ノ下ニ置イタノデアリマス、名前ヲ改メタ所以ハ、協議契約
ニ付テハ學者間ニ色々論議ガアルノデ、契約ト云フ文字ヲ
避ケテ「強制和議」ト云フ名前ニ致シマシタガ併ナガラ其實
質ハ協議契約ト相違ガナイ、協議契約ガ出來レバ、即チ強制
和議ガ成立スレバ、是ニ於テ破産手續ガ終結スルノガ當然
デアリマス、尙ホ此案ニ於テハ破産廢止ノ途ヲ開キマシタ、
破産ヲ進行シタ所ガ却テ宜シクナイ、債權者ノ爲ニ又債務
者ノ爲ニ宜シクナイト云フ場合ニ、多數ノ債權者ノ申立ニ
依ッテ、破産ヲ廢止スルト云フ途ヲ開イタノガ一ツ、ソレカ
ラ此案ニ特別ナ事ハ小破産デアリマス、破産手續ハ、財團ガ
大キイ結果、其管理換價ニ付テハ餘程周密ナル手續ヲ要ス
ルノデアリマス、是ハ各債權者ノ利益ヲ保護スル爲デ已ム
ヲ得ヌ事デアリマスガ、財團ヲシテ僅少ナル事ニ付テ一
此手續ニ依ラシメルトキハ、時ト費用トヲ要スルト云フ爲
ニ、關係人ノ不利益ニナル故ニ小破産ノ途ヲ開イタノデ、是
ハ全ク壞地利ニ倣タノデス、他ハ復權ト罰則ノ事デアリマ
ス、是ダケガ手續規定ニナツテ、破産手續ノ遂行ハ大體サウ

云フコトデ進ンデ行クノデアリマス、所ガ此法案ハ手續規
定ノ外ニ實體規定ノ事ガ定メテアル、是ハ私ガ前ニ申シマ
シタ通り、民法商法等ニ付テ諸般ノ法律關係ヲ定メナケレ
バナラズモノガ澤山アル、ソレガ一ツ、尙ホ手續以外ニ定メ
ナケレバナラズノハ、ドレダケノ債權者ガ破産手續ニ參加
スルコトガ出來ルカト云フヤウナコトヲ定メナケレバナラ
ズ、現行法ノ下ニ於テモ、大體破産債權ト云ヘバ、破産宣告
當時ニ存シテ居ル債權ト云フコトニ解釋致スノデアリマ
ス、其點ヲ最モ明ニシテ、即チ破産手續ニ參加シ得ル債權者
ハ、破産當時債權ヲ有シテ居ル者デナケレバナラズ、是ハ現
行法ト大差ハ無イノデアリマスガ、破産財團ノコトニナル
ト現行法ト此案トハ大變主義ガ相違致シテ居リマス、現行
法デハ破産者ガ破産宣告當時ニ於テ、有スル財產ノミナラ
ズ、爾後例ヘバ相續ニ依ル或ハ寄附ヲ受ケタ、贈與ヲ受ケタ
ト云フノデ、宣告後ノ破産者ガ所得シタ財產モ、破産財團ニ
進入ッテ來ルガ故ニ、破産宣告當時ニ債權ヲ有シテ居ル者
ハ、破産宣告當時有シテ居ル財產ノミナラズ、爾後所得シタ
ル財產ニ對シテモ、破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトニ
ナツテ居ル、併ナカラ此案デハ、ソレデハ破産宣告後ニ債權
ヲ取得シタル者ニ對シテ慘酷デアル、破産宣告前ノ原因ニ
依ッテ債權ヲ取得シタル者ガ、破産宣告者ニ對シテ、破産宣
告後ニ取得シタル財產ニ及ブト云フコトニナレバ、破
産宣告後債權ヲ取得シタル者ガ破産債權者トナラズト云フ
コトニナルカラ、例ヘバ茲ニ相續ガ開始シテ、破産宣告ノ當
時全體ノ債權者ガ續出シテ來テ、全部ノ財產ヲ取ッテシマウ
ト云フコトハ酷デアル、故ニ破産宣告當時ヲ標準トシテ、破
産債權者ト定メルト云フノ理由ニ依ッテ、破産財團モ亦破産
宣告當時破産者ニ屬スル財產ニ限ルコトヲ云フコトニ致シタ
ガ、現行法ト破産法ノ草案ト違フ點デ、是ハ獨逸ノ主義ニ
則ッタノデアリマス、ソレカラ其次ニ特ニ財團債權ト云フコ
トヲ掲ゲデアリマス、コノコトハ現行法ニモ二三アル、或
ハ租稅ノコトナリ、或ハ破産手續ノ費用ト云フヤウナモノ
ガアルノデアリマスガ、本案ニ於キマシテハ、財團債權ハ如
何ナルモノデアアルカト云フコトヲ、茲ニ列舉シテ掲ゲテア
ルノデアリマス、要スルニ是ハ破産債權ガ破産財團ノ管理
處分ヲ引渡サナケレバナラズ、或ハ財團ノ處理ノ必要上、金
ヲ借リルト云フヤウナコトニナルト債務ヲ生ズル、サウ云
フ破産手續遂行上生ジタ債權ハ、之ヲ通常ノ破産債權者ト
同一ノ列ニ於テ配當ヲ受ケシムルト云フコトハ、無意味デ
アルト云フ關係カラ、破産手續ヲ離レテ、破産財團ノ處理ニ
關シテ生ジタ債權トハ、別ノ方法ニ於テ辨濟等ヲ爲シテ行
クノデアリマス、破産財團ノ處理ニ關スル債權ハ、一ノ主ナ

ルモノデアリマスガ、其方法ニ破産手續ニ依ツテ生ジタル費用、或ハ債務者ノ資料トカ扶助料トカ、サウ云フ諸般ノモノヲ破産債權外ニ、丁度破産財團債權ト云フモノヲ茲ニ造ラテ、租税モ此中ニ這入ル、其次ニ實體ノ規定トシテ、法律行為ニ關スル破産ノ效力、是ハ私法前ニ申シマシタガ民法ト商法トノ關係デアリマス、主ナル事ヲ申シマスレバ、破産宣告後破産者ハ、財團ニ關スル何等ノ處分行為、其他管理行為、苟モ破産財團ニ關スル法律行為ヲ爲スコトハ出來ナイノデアリ、破産宣告後財産管理處分ノ權利ハ、一ニ破産管財人ノ手ニ歸スルノデアリマスカラ、破産者ニハ破産財團ニ關スル法律行為ハ全クサセナイト云フ原則カラ出テ居リマス、併ナガラソレデハ時トシテ善意ノ債權者ヲ害スル、善意ノ當事者ヲ害スル場合ガアルカラ、之ニ幾多ノ例外ガアル、ソレカラ從前カラアツタ法律關係デアリマシテ、將來繼續スルモノヲ如何ニ處理スルカト云フ破産ノ爲ニハ、特ニ法律行為ノ處理ノ途ヲ開カナケレバナラヌモノガ澤山アル、民法商法ニモ幾分アリマスガ、ソレデハ足ラヌト云フノデ斯ノ如ク多クノ規定ヲ掲ゲテアル、ソレカラ次ニ申上ゲタイノハ否認權デアリマス、是ハ現行法ニモアルノデアリマス、文字ハ否認權トシテゴザイマセヌガ、破産宣告前ニ爲シタ破産者ノ行為ニシテ破産財團ニ害ノアルモノハ、大體ニ之ヲ否認スルコトニナツテ居ル、其趣旨カラ、如何ナル場合ニ於テ、如何ナル行為ニ於テ、如何ナル條件ノ下ニ否認スルコトガ出來ルカ、而シテ否認ノ效果如何、否認權ハ何人ガ之ヲ行フカ、管財人ガ行フノデアリマス、諸般ノ事ニ付テ否認權ノ事ヲ遺漏ナク定メタノハ、此實體規定第六章ノ否認權取戻權、是モ現行法ノ下ニアリマスガ、破産ハ要スルニ債務者ノ全體ニ對スル強制執行デアリ、サウシテ其破産財團中ノ破産者ニ屬セザル他人ノ財産ヲ這入レテ居ルト云フコトニナルト、之ヲ妨ゲル方法ヲ講ジナケレバナラヌ、民事訴訟法ニ於テ、御承知ノ通り強制執行ニ關スル第三者ノ異議、即チ債務者ノ所有ニ屬セザル財産ヲ差押ヘラレタ場合ニ於テ、其所有者ハ強制執行ニ關スル異議ヲ申立テルト云フ規定ガアル、大體ニ於テ其精神ハ同ジデアリ、破産ニ於ケル強制執行ニ關シ、第三者ガ其債權ヲ主張シテ異議ヲ申立ルト云フ異議ガ、即チ此取戻權トナルノデアリマス、ソレカラ別除權、斯ウ云フモノガアルノデアリマスガ、是ハ現行法ニモアルノデアリマス、即チ破産者ノ財産中質權ノ目的ニナツテ居ルモノ、或ハ抵當權ノ目的ニナツテ居ルモノ、其他特別擔保ノ目的ニナツテ居ルモノガ茲ニアル、此特別擔保ノ權利、勿論普通ノ場合ニ於テモ何人ニモ對抗スルコトガ出來ル、法律語ヲ以テ言ヘバ第三者ニ對抗スル意味デアリマス、果シテ然ラバ破産宣告ガアツタガ爲ニ、第三者ノ權利ガ消滅ス

ル理由ガ無い、是等ノ物權ヲ破産財團、即チ一般ノ總債權者ニ對抗スルコトガ出來ルノデアリマス、其權利ノ行使ハ破産手續外ニ於テ普通ノ強制執行、或ハ其他ノ方法ニ於テ、通常ノ方法ニ依ツテ質權擔保物權ヲ實行スルノデアリマス、之ヲ名ツケテ別除權ト云フコトニナツテ居ル、此別除權行使法ハ又諸般ノ規定ヲ手續規定ノ中ニ分ツテ居リマス、總リノ相殺、此相殺關係ハ何カ規定ガアリマセヌト云フ事ニナルト、例ヘバ茲ニ破産債權者ガ居ル、同時ニ其者ハ債務者トナツテ居ル、普通ノ場合ニ相殺ガ出來ルモノデアアルノデアリカ、若シ相殺ヲ許サヌト云フコトニナルト、或ハ相殺ヲ許スト云フ明文ガナイ限り、破産債權者ハ、自分ノ財産ガ破産手續ニ於テ一時ノ配當ヲ受ケマシテ、例ヘバ一萬圓ノ債權ニ付テ千圓ノ配當、之ニ反シテ自分ガ破産者ニ對シテ負擔シテ債務ヲ一萬圓受ケル、其一萬圓全部ヲ拂ハナケレバナラヌ、既ニ相殺ノ權利ハ破産宣告當時出來テ居ルニ拘ラズ、一萬圓ナラ一萬圓ノ債權ト債務ヲ相殺スルコトヲ許サズンテ、普通ノ手續ニ依ルト云フコトニナルト、結局九千圓ノ損ヲシナナケレバナラヌ、是ハ少シク其者ニ取ツテ酷デアアルト云フノデ、相殺權ハ各國別除權ニ准ジテ、破産手續外ニ於テ其相殺權ヲ行使セザルコトニナツテ居ル、本案モ其趣旨ニ基キマシテ、相殺ノ事ニ付テ詳細ナル規定ヲ置イテ、如何ナル債權ハ相殺ヲ爲シ得ルヤ否ヤ、相殺ハ如何ナル方法ヲ以テスルヤ否ヤト云フヤウナ事ニ付テ、詳細ナル規定ヲ設ケテ居リマス、大體本案ハ斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマス、尙ホ細カイ事ヲ申上ゲレバ——或ハ大キナ事ヲ申上ゲテモ澤山アリマスケレドモ、大部ノ法律案デアリマスカラ、徒ニ時間ヲ一般説明ニ費スコトハ如何カと思ヒマス、破産法案ノ大體ノ説明ハ此程度デ止メタイノデアリマス、ソレカラ和議法デアリマス、是ハ破産法ニ於ケル強制和議ト大對ニ於テ違ハナイ、違ハナイノデアリマスガ、其根本ニ於テ異常ナル違ハアルノハ、破産法ニ於ケル強制和議ハ、破産宣告後協議契約ヲスルノデアリマス、當事者ノ協和ノ結果、茲ニ破産手續ニ依ラズンテ或和解ラシテシマウト云フノガ、此破産法ニ於ケル強制和議デアリマス、此和議法ノ分ハ、破産宣告後ニ此協議ノ途ヲ講ジタ、一度破産ノ宣告ヲ受ケタ様ナモノニナル、破産宣告ヲ受ケズンテ或ハ更ニ進ミマス、破産宣告ヲ受ケザル即チ破産宣告豫防——防止ノ爲ニ和議ヲスル、是ハ實際大キナ銀行會社等ニ於テ、破産狀態ニ瀕シタ場合ニ於テハ、實際ニ於テ所謂財産整理ト云フ名前ニ於テ、債權者ト債務者ノ協和ニ依ツテ諸般ノ事ヲ致シテ居ルノデアリマス、若シ一人不當ノ債權者ガアツテ、其權利ヲ獨斷ニ主張スル者ガアルト、其一人ノ異議ニ依ツテ、財團整理ノ契約ガ出來ナイト云フコトニナル、其結果小サ

ナ債權者デ非常ニ和議ノ成立ヲ妨害スル嫌ガアル、其爲ニ多クノ債權者ハ——債務者ハ勿論債權者ハ非常ニ困ツテ居ル例ト云フモノハ、經濟社會ニ於テハ頻々トシテ其例ヲ見ル、ソレデ此強制和議デアリマスガ、破産豫防ノ爲ニスル強制和議ハ即チ多數決デ、多數決ト言ヒマシテモ普通ノ多數決デハナクシテ、特別ノ多數決ヲ以テ、財産整理ノ方法ヲ決定スルノデアリマス、而シテ破産ヲ防止スル、防止ノ關係ハ破産ノ申請ガアツテモ直ニ和議ノ申出ヲスレバ破産手續ハ中止シテ、和議ガ成立スレバ、結局破産ノ申出ヲ棄却スルト云フコトニナルノデアリマシテ、之ヲ以テ破産ニ陥ル者ナカラシメ、和議ノ方法ヲ以テ債務者ヲ救済シ、而シテ同時ニ經濟社會ノ救済ノ途ヲ講ズルノガ、極メテ必要ノ事デアルト云フノデ、是モ一番新シイ完備シタ所ノ法律ハ壞地利ノ法律デアリマス、是ハ戰爭前ニ出來上ツテ、マダ實行ノ結果ハ私ハ能ク承知シマセヌガ、併ナガラ其效果ノ見ルベキモノアルト云フコトハ、是ハ常識ヲ以テシテモ疑ナキ所デアラウト考ヘル、和議ノ根本ノ趣旨ノ違フ所ハ、破産法ノ強制和議トノ間ニ此點ガ存スルノデアリマスガ、其手續等ニ至リマス、大體破産法ノ強制和議ト、和議法ノ強制和議ニ依ツテ大同小異ト云フコトニナル、尙ホ其内容ノ細カイ事ハ、若シ御不審ノ點ガアリマスナラバ御質問ニ應ジテ御答致スコトニシテ、大體ノ説明ハ此點ニ止メテ置キマス

○前田委員長 今日ハ此ノ程度デ止メマシテ、次會カラ質問ニ這入リタイと思ヒマス(贊成々々)ト呼フ者アリ、次ノ日時ハ公報デ申上ゲマス、今日ハ是デ散會致シマス

午後零時四分散會

大正十一年三月八日印刷

大正十一年三月九日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局